

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第3号

「産褥早期母児愛着形成支援」のための看護職トレーニングプログラムの介入効果

(Evaluation of a training programme for nurses and midwives to facilitate mother-infant bonding in the early postpartum period)

大田 康江 (おおた やすえ)

博士 (看護学)

### 論文内容の要旨

【目的】産褥早期における良好な母子関係の構築を支援するアタッチャー(母児の愛着形成支援者)を目指し、産褥早期の母児ケアに従事している看護職を対象に、「産褥早期母児愛着形成支援」のための看護職トレーニングプログラムを開発、導入し、その効果について、授乳ケア場面における看護者の母児への関わりの変容を言語的、行動的、認知的側面から定量的かつ定性的に検証することである。

【方法】プログラム介入前後における看護者の母児への関わりの言語的・行動的变化を、授乳ケア場面の参加観察法により定量的会話分析および事例分析を用いて評価した。また認知的変化については、介入後に看護者へのリフレクション面接を実施し、Braun(2006)のテーマ分析の手法を用いて定性的評価をした。

【結果・考察】研究協力者は、産褥早期の母児ケアに携わる看護者 17 名であった。介入前後における看護者の母児への関わりの言語的变化は、「相互作用促進」発話において、介入後は看護者、母親ともに有意に増加が認められた( $t=-4.79, p=.00, t=-2.86, p=.01$ )。なお、看護者の発話は、<児のサインをキャッチし応答・代弁><児のサインを教示・説明><児をひとり人間として扱う・話しかける>すべての下位項目において有意な増加がみられた( $t=-2.15\sim-6.02, p=.05\sim.00$ )。一方、母親は<母親がナースの児への応答に追従>に有意な増加がしめされた( $t=-4.16, p=.00$ )。

看護者の母児への関わりの言語的・行動的变化の定性的分析では、介入後には、17 名中 13 名の看護者においては、児の行動に意識が向き、児を一人の人間として捉え、児のサインをキャッチし、適切に応答できる児への応答性が高められ、看護者の児への応答性が高まると、児との関係づくりのモデルとなるアタッチャーとしての役割行動が促進されていた。さらに、看護者にアタッチャーとしての役割行動がみられると、母親に看護者の児とのやりとりを模倣する行動がみられ、結果として母児相互作用が促進されることが示された。また、母親との関係性構築においては、母親の気持ちやニーズに応え、母親を情緒的に包み込むような態度で接するアタッチャー(母児の愛着形成支援者)としての役割行動が促進されていた。しかしながら、介入後においても、4 名は母児との関わりにおいて、対象に合わせたコミュニケーション調整に課題が残った。看護者へのリフレクション面接にみた認知的側面は次のように変化をしていた。新生児の行動に関する新たな知識やスキルを獲得したことにより、児の行動観察の重要性の気づきが芽生え、乳房管理偏重、看護者主導などの自己の母児ケアへの内省がみられた。一方、自己の経験知に裏付けされる実践と今回獲得した新たな知識やスキルとのすり合わせ作業の中で、葛藤を抱えていることも表出された。

【結論】産褥早期の母児ケアに従事している看護職を対象に、「産褥早期母児愛着形成支援」看護職トレーニングプログラムを作成し、17 名の看護者に展開した。その結果、トレーニング後の母児への看護ケア場面において、看護者の児への応答性が高められ、母親との関係性構築において応答的・養育的・模範的態度への行動変容がみられ、看護者のアタッチャー(母児の愛着形成支援者)としての役割行動が促進されることにより、結果として母児の相互作用が促進されるという介入効果が検証された。